

(4) IT と医療ネットワーク

四 元 秀 毅

(4) INFORMATION TECHNOLOGY IN MEDICAL NETWORK

Hideki YOTSUMOTO

ネットワークに基づく臨床研究の今後の発展には、ネットワークに内在する問題点の克服や効率的な症例データベース作成のための医療情報システムの整備が必要である。

本発表では、共同研究を進める上での現在の「政策医療ネットワーク」の若干の問題点をあげ、国立医療施設のオーダリングシステムの導入状況に関する調査結果を示し、あわせてIT (information technology: 情報技術) 時代の医療ネットワークの意義について考察する。まず、本ネットワークに由来する問題点として、参加施設の関係が、本来意味する対等ではなくヒエラルキー的系にある点があげられる。研究の遂行には核となるべき中心が必要なことは言うまでもないが、上部施設が成果を独占し下部組織は徒労感のみに終わるようなことがないような配慮が今後も求められよう。また、ネットワークの閉鎖性は研究の制約になるので、殻に閉じこもらない活動を目指すことも必要であろう。

さて、近年、ITの進歩によって電子化された大量の情報の保存・分析・検索・伝送が可能になり、ITは第2の産業革命とも言うべき変革をもたらしつつある。わが国政府も e-Japan II でITの生活への取り込みの重要性を強調し、「医」の方策では2005年までの目標として、認証基盤の整備や電子カルテのネットワーク転送などをとりあげている。このような流れのなかで、情報システムの採用が遅れがちであった医療の分野でもその導入が広まりつつあるが、今回の全国国立病院・センター施設・療養所に対するアンケート調査では、オーダリン

グシステムの設置率は国立病院で約44%、療養所で約20%で、呼吸器疾患ネットワーク施設でも約30%にとどまっていた。なお、設置施設の約半数は9項目中3項目以下の実施とシステム導入初期状態の施設が多かった。情報技術は医療のあり方を様変わりさせつつあるが、国立医療施設はこの面で時代に十分に適応しているとは言い難い。

ところで、ITはこれからの医療にどのような変革をもたらすであろうか。診療録が電子カルテに移行するなどしてデータの電子化が進むと、患者はカードに収められた医療データを持参して病院を訪れるようになったり、画像内容を含む各種データがネットワーク上でやりとりされるようなことが一般化するかもしれない。診療は個人性の高い行為なので、ITの利用だけで必ずしも良質の医療を期待できるようになる訳ではないが、ITは医療のパラダイムシフトをもたらすことになるだろう。遠隔医療やコンサルテーション・サービスが広まると、専門医療機関にとっては、受診患者を診るだけでなく他の医療機関からの相談に応じることも大事な任務になるかもしれない。このようにして、専門グループの「診療ネットワーク」の活動範囲は一層拡大していくであろう。

(本報告の詳細な内容は、雑誌「医療」に「情報技術とネットワークに基づく臨床研究—国立医療施設のオーダリングシステムの普及状況をまじえて—」と題して発表した。医療 58: 371-373, 2004)

(平成16年6月28日受付)

(平成16年8月19日受理)

国立療養所東京病院 (現: 国立病院機構東京病院) National Tokyo Hospital 院長

Address for reprints: Hideki Yotsumoto, Director, NHO Tokyo Hospital, 3-1-1, Takeoka Kiyose, Tokyo 204-8585 JAPAN

Received June 28, 2004

Accepted August 19, 2004